

# 2023 年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

民事法学・公法学専攻（英 語）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

以下の英文を和訳しなさい。イタリックによる強調は無視してよい。

出典： Neil Richards & Woodrow Hartzog, "Taking Trust Seriously in Privacy Law", *Stanford Technology Law Review*, vol. 19, issue 3, pp. 431-472, pp. 436-437.

答案用紙別紙

# 2023年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

政治学専攻（英語）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

次の点に留意しつつ、以下の英文の内容を 500-600 字程度の日本語に要約しなさい。

- (1)なるべく読みやすく正確な日本語で書くこと。
- (2)議論のキーワードとなっている英単語を和訳し、要約に過不足なく含めること（英語のまま用いるのは不可）。
- (3)研究者の人名、専門・学術用語は、日本のアカデミズムで一般的に使用されている日本語に翻訳すること。

（出典）Anthony Elliott (2022) *Contemporary Social Theory: An Introduction* (Third edition).  
London/New York: Routledge, pp.245-246.

答案用紙別紙

# 2023 年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

民事法学・公法学専攻（ドイツ語）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

以下の文章は、*Oliver Lepsius, Kontextualisierung als Aufgabe der Rechtswissenschaft, in: Juristenzeitung (JZ) 2019, S. 793 ff.* から抜粋された文章である。この文章を最後まで読み、何について論述されたものであるかを全体的に把握・理解した上で、和訳しなさい。

答案用紙別紙

# 2023年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

政治学専攻（フランス語）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

次のフランス語の文章を日本語に訳しなさい。

(出典：Donimique Schnapper, *De la démocratie en France*, Paris, Odile Jacob, 2017, pp. 36-37)

答案用紙別紙

2023年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

共通（日本語）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

発禁本に関する以下の文章を読み、問いに答えなさい。

- 問一 傍線部①のように言えるのは何故か、説明しなさい（五～十行程度）。
- 問二 傍線部②はいかなる意味か、説明しなさい（五～十行程度）。
- 問三 傍線部③の意味を説明した上で、この疑問に対する自身の意見を述べなさい（十行程度）。

（野崎敏「西洋発禁本事情」同『われわれはみな外国人である』（五柳書院、2007年）所収（初出：2002年）より。出題に当たり、構成及び表記を一部改めている。）

答案用紙別紙

# 2023 年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

共 通（史料読解）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

次の史料を読み、その内容を簡潔に説明するとともに、この史料が持つ日本政治史上の意義について論じなさい。

答案用紙別紙

# 2023 年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

共 通（統計学）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

1. ある製品の不良品確率は 0.05 である。完成した製品から無作為に 100 個の製品を取り出した時の不良品の割合を  $P$  とする。 $P$  の期待値と標準偏差を求めよ。ただし、 $\sqrt{475} = 21.8$  として計算せよ。
2. 確率変数  $X$  は区間  $[a, b]$  で一様分布する確率変数である（ただし  $0 < a < b$ ）。 $Y = X^2$  とするとき、 $Y$  の確率密度関数を求めよ。
3. 線型モデル  $y_i = \alpha + \beta x_i + u_i$  を想定する。ここで、 $y_i$  は被説明変数、 $x_i$  は説明変数、 $u_i$  は誤差項、 $\alpha$ 、 $\beta$  は未知のパラメータである（ $i$  は  $i$  番目のオブザベーションを表す）。通常の回帰分析では、誤差項の分散均一性を仮定するが、この仮定が成り立たない場合にはどのような問題が生じるか結果だけ説明しなさい（数式で導出する必要はない）。また、誤差項の分散不均一性を検出するためにどのような分析が必要か論じなさい。

(1.は 40 点, 2.3.は各 30 点)